

シリーズシンポジウム
環境共生未来都市実現への環境工学の挑戦

開催趣旨

日本は 1960 年代、70 年代の公害との戦いの時を経て、世界有数の安全快適な生活環境を創造してきました。日本の経済成長が極めて速かったこと、国土の中で利用が容易な平野が少なく、一方で大きな人口を抱えていたことから、都市部では高い人口密度となったこと、そのため汚染物質の高い排出密度に対応できる高度な技術開発が必要であったことなどが、日本の衛生工学、環境工学を世界トップレベルへと引き上げてきました。しかし、近年の大学生などの若い世代には、生まれた頃から衛生的な環境で育ったものが多く、安全、衛生的な環境の創造に関して、強い使命感を感じているものが少なく、中には、環境工学やその関連分野は国内での発展は望めない斜陽学問のように考えている者が出始めております。しかし、近年の地球温暖化による異常気象現象の多発、それにともなって重みを増してきた水・食料・資源の偏在や枯渇の問題、加えて不安定な国際秩序による食料や資源確保への不安、そして日本がこれから向かうことになる超高齢化・人口減少社会の在り方、などを考慮した場合、安全・衛生的な環境を維持していくためには、コンパクトな循環型都市の創造を可能とする新たな環境工学への発展が求められていると考えられます。つまり、これから 100 年先までの日本そして世界を創造していく上で、環境工学はまだまだ大きな伸び代を持って発展が期待される分野であることを、若い世代にアピールし、良い人材を確保していくことが必要です。このため、京都大学の環境工学関連部局・専攻が共同でシリーズシンポジウムを開催し、各回、今後、環境工学において発展・変革が望まれる分野、重要性を増してくる分野を中心に、広く社会、そして若い世代に環境工学の使命・重要性をアピールし、環境工学分野で働く技術者らにエールを送ることを考えました。

以上の開催趣旨の下、まず第 1 回シンポジウムとしては、「次世紀へ生き残るために、地球温暖化の先にある世界 - 高度循環型低炭素社会実現への挑戦！」と題し、地球温暖化問題における環境工学の使命を取り上げる事としました。昨今、あまりマスコミに出なくなったことから、学生など若い世代に温暖化対策が軽く見られている感がありますが、温暖化問題は間違いなく、次世代の生活環境を守る上で最大の外的因子となると思われます。よって、第一回シンポジウムにおいて温暖化問題の重要性を再認識するとともに、その緩和策において、環境工学の果たす役割は今後ますます大きくなることをアピールしたいと考えています。なお、第 2 回以降では、国際化、高齢化・人口減少社会、高度情報化などをテーマとしたシンポジウム開催を検討しています。第 2 回以降においても多くの方々にご参加頂ける、魅力あるシンポジウムを企画していきたいと考えています。

2016 年 8 月
京都大学 環境工学関連部局・専攻